



【 8 月の気象 】

例年、8 月は太平洋高気圧に広く覆われて晴天の暑い日が続き、1 年のうちで一番気温が高い月となります。真夏日（日最高気温が 30 度以上の日）の松山の年間日数は、10 年で 0.8 日の割合で増えています。2024 年は特に気温が高く、8 月の平均気温は愛媛県内のアメダス地点の約半数で観測史上 1 位となりました（第 1 表）。

また、強い日射によって地面付近の空気が暖められて上昇気流が強まると、積乱雲（入道雲、雷雲）が発生・発達し、局地的に急な強い雨や落雷、竜巻などの激しい突風をもたらすことがあります。落雷や竜巻などの激しい突風が予想される場合に、気象台では雷注意報や竜巻注意情報、落雷と突風に関する気象情報等を発表して注意を呼びかけます。雷の音が聞こえたり、黒い雲が近づいたり、急に冷たい風が吹いてきたときは、発達した積乱雲が迫っているサインです。屋外にいる場合は、頑丈な建物など安全な場所へ速やかに避難してください。河川や水路等、急な強い雨による増水にも注意が必要です。

引き続き、熱中症や農作物の管理には十分注意してください。熱中症の予防には気象庁と環境省が共同で発表している「熱中症警戒アラート」をぜひご利用ください。<https://www.wbgt.env.go.jp/alert.php>

第 1 表 2024 年 8 月の平均気温
(値は℃、※は観測史上 1 位)

地点	2024年	平年	差
松山	29.9※	28.1	+1.8
宇和島	29.1※	27.7	+1.4
大三島	28.3	26.8	+1.5
今治	29.2	27.4	+1.8
西条	29.2※	27.4	+1.8
新居浜	28.7	-	-
四国中央	28.9	27.9	+1.0
松山南吉田	28.8	27.5	+1.3
長浜	27.7	26.5	+1.2
久万	26.0※	24.5	+1.5
大洲	28.4	27.4	+1.0
瀬戸	27.6※	26.2	+1.4
宇和	27.8	26.6	+1.2
近永	28.1※	26.5	+1.6
御荘	29.1※	27.5	+1.6

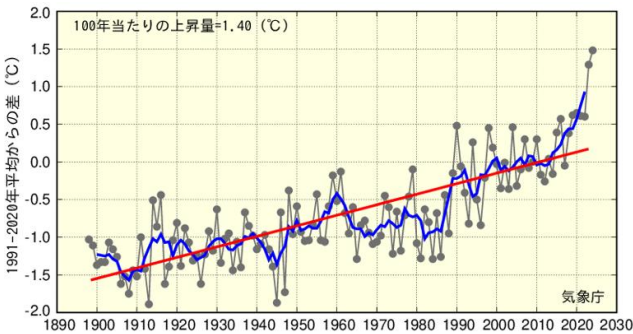
【 気象用語 】 温暖化に伴う気温の上昇 ～日本の気候変動 2025～

文部科学省と気象庁は、最新の知見・成果を盛り込んだ「日本の気候変動 2025」を 3 月に公表しました。人為起源の温室効果ガスの排出等によって、地球の平均気温が上昇し、その影響で大雨・高温など極端な現象の発生頻度と強度が増加していること、今後より一層強化した対策がとられなければ影響はさらに大きくなることが報告されています。

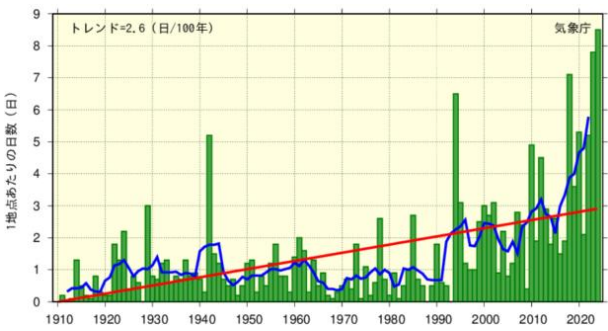
その報告書では、日本の平均気温は 100 年当たりで 1.40 度の割合で上昇しています（第 1 図）。また、WMO（世界気象機関）によると、2024 年の世界平均気温は過去最高を更新しています。

平均気温が 1 度上昇するとは、日々の寒暖差のうち一時的に普段より 1 度高くなるのではなく、寒暖差などの変動が長期的に 1 度高温側に偏ることを意味します。高温側への偏りにより猛暑日や熱帯夜なども発生しやすくなります（第 2 図）。また、都市部ではヒートアイランド現象が加わることで、全国平均を上回る割合で上昇しています。

大気モデル実験により評価した日本における極端な気象現象の変化を示したのが第 2 表です。例えば、「非温暖化」の状態では 100 年に一回しか発生しないような高温現象が、20 世紀末では 100 年に 10 回程度なのに対して、工業化以前より 2℃ 上昇 / 4℃ 上昇したと想定される気候状態では、それぞれ 100 年で 67 回 / 99 回の頻度と予想されています。



第 1 図 日本の平均偏差の経年変化成（1898～2024 年）
(偏差の基準値は 1991～2020 年の 30 年平均値)



第 2 図 猛暑日の年間日数（全国 13 地点の平均）

第 2 表 日本における過去から将来までの極端現象の変化
(2℃/4℃上昇：工業化以前より上昇したと想定される場合の頻度)

要素		非温暖化 (工業化以前に相当)	20世紀末 (1981～2010年)	2℃上昇	4℃上昇
気温	100年に一回の 極端な高温の頻度	一回 (基準)	10回	67回	99回
	100年に一回の 極端な高温の強度	(基準)	+1.1℃	+2.9℃	+5.9℃